

四二

大森小治兵衛が杵の化けたのを見る

おおもりのこじべえ
大森小治兵衛のお父さんも小治兵衛といいました。そのお父さんの

家の近所に土山金吾という人が住んでいて、碁をいつもいっしょに楽しむ親しい友だちでした。あるとき、小治兵衛の家へ金吾が碁をうとうと遊びにきていましたが、日が暮れるのも気がつかないまま夢中になつてうつつしていました。日が暮れたころ、入り口にかかった、のれんの下から誰かが顔を出しています。

「何者だね。」

と聞いてみましたが返事がありません。そこでよく見てみると米をつく杵きねでした。これは不思議と二人がすぐに出ていってみると、その杵は頭に手ぬぐいを巻いて、入り口のかかりはなれたところでおれていました。

二人はおどろいて不思議がりましたが、その後は何の変わりもありませんでした。

